

本学と地元自治体による学校運動部活動の地域移行連携について
—学生指導者の配置とコーディネート組織の設立にむけて—

永 谷 稔¹⁾
大 宮 真 一¹⁾ 梅 村 拓 未²⁾

1) 北翔大学生涯スポーツ学部スポーツ教育学科

2) 北翔大学短期大学部こども学科

I. 緒 言

スポーツ庁は、2023(令和5)年より、休日の部活動の段階的な地域移行を2025(令和7)年度末を目途に進めていくこととし、地域の実情等に応じて、合意形成や条件整備に時間を要する場合も、可能な限り早期の実現を目指すとしている¹⁰⁾。さらに、2024(令和6)年12月には、

「地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議」の中間取りまとめとして、地域移行から地域展開や地域連携と名称を整理し、改革実行期間も前期3年間2026(令和8)～2028(令和10)年度、後期3年間2029(令和11)～2030(令和13)年度の計6年間と、中長期的な見通しと休日における確実な実行や定着だけでなく、平日における改革に取り組むことができるよう設定することとしている⁸⁾。

こうした状況に鑑み、本学、北方圏生涯スポーツ研究所スポーツクラブ「スポルクラブ」(以下、スポルクラブ)においても、短期陸上教室の開催や、各部活動毎に中高生向けのクリニックを開催するなど、本学として教育活動でもあり、地域貢献や社会貢献につながる活動として行われてきた。これまでの活動については、筆者らによる報告^{4),5),6),7)}のとおりである。また、本学としても地元自治体と連携や協力をすべきであり、リードしてすすめていく必要性も感じていた。本学が所在するA市においては、地域移行に関する取り組みの検討について、昨年度から部活動のあり方検討委員会(以下、検討委員会)を発足させ、メンバーは、市内中学校校長、教頭、関係教員、PTA、地域団体、学識経験者、そして教育委員会から構成された。

そこで、本報告では、筆者がA市の部活動の在り方検討委員会のメンバーの一員として選出され、また、A市における部活動の地域移行について、同市の大学連携支援事業、および学生地域活動支援事業に選定されたこともあり、A市の部活動の地域移行動向を踏まえつつ、本学とA市における連携や協力現況から、今後の学生指導者の配置・育成およびこれらをコーディネートする組織の設立へ向けた動きについて、視座や知見を得ようとするものである。

II. A市の部活動の地域移行における現状

1. 指導員の配置

まずは、A市内の中学校の部活動における現状について概観する。A市は北海道中部(道央地方)にある人口約12万人の都市である。札幌中心部まで車で40分程度、公共交通機関では約20分とアクセスが良く、新興住宅の建設もあり周辺自治体で人口減少が続いているなか、

2019(令和元)年には15年ぶりの人口増となっている。市内中学校数は8校あり、小学校は18校、高等学校は5校、本学を含めた大学も4校ある。特に本学周辺は文教地区として学生以外の住民も比較的多い地域となっている。

A市においては、2023(令和5)年度より学校部活動のあり方について検討し、2024年11月までに合計4回の委員会の開催、2度のワークショップ実施、第1回ワークショップは、2024(令和6)年1月24日に実施し「部活動指導員の導入」について、第2回は、同年2月7日に実施し「拠点校方式の導入」について、それぞれグループ演習を行った。第1回と第2回は同じ参加者であるが、天候や参加者都合により若干の欠席があるものの、第1回は教員17名、保護者15名、関係団体12名、公募市民8名の計52名、第2回は教員16名、保護者13名、関係団体9名、公募市民7名の計45名であった。部活動指導員については、募集方法や待遇、責任や教員との連携などが、拠点校方式については、顧問の責任や負担、規模や移動距離、施設や会場などが課題としてあげられた。やはり、教員以外が指導に当たることに対して、不安が見受けられ、生徒はもちろん保護者と学校も慣れていく必要があることから、休日の部活動指導員を段階的に導入していくこととし、2024(令和6)年度に指導員を3校4名任用することとなった¹⁾。

指導員の内訳は、A中学校のバドミントン部に1名(60代男性、非常勤講師)、B中学校の野球部に1名(40代男性、元教員)、C中学校のバスケットボール部に2名(7月までと8月からそれぞれ20代男性、大学生)であり、勤務条件は、土日祝のいずれか週1日3時間の勤務とし、大会や練習試合引率により3時間を超える場合は、年間の時間数の中で調整する。主な業務内容は、実技指導や大会等の引率の他、用具・施設の点検管理、保護者等への連絡、事故が発生した場合の現場対応などを含み、これらを教職員と連携分担することとしている。報酬は、1時間あたり1,600円および交通費を支給し、市外への引率には別途旅費を支給するものである。

導入した中学校からは、顧問の業務量が減り、休日を増やすことができた、専門的な指導を受けることができたなどのプラスの面がある一方、校舎の施設管理は教職員で行わなければならない、業務量の軽減にはつながっていない、活用時間に上限があること、指導者資格取得が必要な場合は高額であるなど、課題も指摘されている。しかしながら、一定の効果が現れるとして、次年度は全校に1名ずつ配置できるよう予算要求を行い、指導員配置を拡大し、人材については、北海道サポーターバンクの活用や市内関係団体との連携により確保を目指している。

表1 陸上競技のトレーニング指導概要

回数	日時	時間	場所	参加中学生数	学生指導者	実施内容
①	8月28日(水)	16:30-18:30	陸上競技場	2名	4名	コントロールテスト
②	9月11日(水)	16:30-18:30	陸上競技場, 第1体育館走路	2名	4名	動きづくり(走投)
③	9月18日(水)	16:30-18:30	陸上競技場	1名(女子生徒テスト前欠席)	2名	動きづくり(走投)
④	9月25日(水)	16:30-18:30	陸上競技場	2名	5名	動きづくり(走投)
⑤	10月2日(水)	16:30-18:30	陸上競技場	2名	4名	アルティメット, 動きづくり
⑥	10月9日(水)	16:30-18:30	陸上競技場	2名	5名	アルティメット, 動きづくり
⑦	10月16日(水)	16:30-18:30	陸上競技場	2名	4名	キックベース, 動きづくり
⑧	10月23日(水)	16:30-18:30	第1体育館走路	1名(女子生徒怪我欠席)	4名	動きづくり(走跳), InBody測定
⑨	10月30日(水)	中止	中学生のテスト前, 体調不良			
⑩	11月6日(水)	16:30-18:30	第1体育館走路	1名(男子生徒怪我欠席)	4名	動きづくり(走跳)
⑪	11月13日(水)	16:30-18:30	第1体育館走路	1名(男子生徒怪我欠席)	4名	動きづくり(走跳), InBody測定
⑫	11月20日(水)	16:30-18:30	第1体育館走路	1名(男子生徒怪我欠席)	4名	動きづくり(走)
⑬	11月27日(水)	16:30-18:30	第1体育館走路	2名	4名	動きづくり(走跳), 自重筋トレ
⑭	12月4日(水)	16:30-18:30	第1体育館走路	2名	4名	動きづくり(走跳), ハードル
⑮	12月11日(水)	16:30-18:30	第1体育館走路	2名	3名	動きづくり(走跳), ハードル
⑯	12月18日(水)	16:30-18:30	第1体育館走路	2名	3名	動きづくり(走跳), 自重筋トレ
⑰	12月25日(水)	16:30-18:30	第1体育館走路	2名	2名	動きづくり(走跳), 自重筋トレ
今後の予定						
⑱	1月8日(水)	16:30-18:30	第1体育館走路			
⑲	1月15日(水)	16:30-18:30	第1体育館走路			
⑳	1月22日(水)	16:30-18:30	第1体育館走路			
㉑	1月29日(水)	16:30-18:30	第1体育館走路			

2. 学生指導者への配置

本学とA市との連携において、大学連携支援事業により、陸上競技とバレーボールの2種目のトレーニングや指導、体験を実施している。陸上競技においては、昨年度に引き続き2年目となる。図1の案内を7月末の学期終了前までに教育委員会経由で全中学校に配布し、各家庭から直接QRコードによる申込を依頼した。

昨年度は募集時期が夏休み明け8月以降であったことから、7回のみの実施であった。本年度は、全21回を計

画し、表1のとおり実施された。昨年度と比較すると早めの募集開始であったものの、参加者は2名にとどまった。これは、早めの募集開始とはいえ7月末であり、すでに4月当初からクラブとして活動するケースがほとんどであり、年度中途での募集では参加も難しいことが、関係者からは漏れ伝わっているとのことである。

一方、バレーボール指導・体験については、今年度から新規追加の試みであり、実施予定や内容の計画調整から、昨年の陸上競技のように夏休み明けの募集開始となった。図2の案内を陸上競技のトレーニング指導に関する案内同様に、教育委員会経由で全中学校に配布し、各家庭から直接QRコードによる申込を依頼した。

バレーボール指導・体験は全8回計画し、合計26名の申込があった。表2のとおり、内訳は、男子14名(1年7名・2年5名・3年2名)、女子12名(2年7名・3年5名)、未経験を含む初心者6名、一通りのプレーが出来る中級者が19名、上級者1名、部活動のみ所属しているが13名、部活動とクラブチームを兼ねて所属しているが9名、クラブチームのみ所属しているが3名、いずれも所属なしが1名(初心者)であった。また、各回20名平均で参加者もあり、学生4名を基本として指導に当たった。

しかしながら、申込者が想定より多くあり、かつ、競技(技術)レベルの差も離れていたこともあり、各回バレーボールコート2面に対応し、共通内容で実施や男女別やレベル別に分かれて実施したものの、初心者には困難で、中級者や上級者には物足りなさを感じさせた。また、学生指導者も毎回同じではなかったためか、前回の内容を引き継ぎながら、参加者のリクエストに応じていると、指導者が足りなく、場面に応じては急遽練習中から学生指導者を追加しながら対応した。

2024年度江別市中学生対象 陸上競技のトレーニング指導に関するご案内

今後の中学校における部活動の地域移行の在り方が検討されています。昨年度に引き続き、北翔大学では江別市内の中学生を対象として、8月の2学期から毎週水曜日の夕刻、陸上競技のトレーニング指導受講生を募集します。大学の陸上競技場で、学生指導者から指導を受けてみませんか？

記

*日 時：毎週水曜日 16:30~18:30
初回 令和6年 8月 28日(水) 16:30~18:30
以降 令和7年 1月 29日(水)までの 合計21回
*休講日 9/4(水)、1/1(水)
※大学の事情により、中止の日が発生する可能性もございます。

*場 所：北翔大学陸上競技場(雨天、冬季間：第1体育館室内走路)住所 江別市文京台2-3番地

*対 象：中学1~3年生

*募集人数：30名

*参加費：無料

*駐車場：浅井記念館前駐車場

*申込方法：右記のQRコードから必要事項を記入の上、申し込みをお願いします。お電話の申込は受付できません。

*申込期間：令和6年8月18日(日)

*実施内容：中学生に必要な陸上競技の基礎的な体力・技術トレーニング
体力・運動能力測定(トレーニング前の体力レベルを把握)

*持ち物：スパイク、飲み物、タオル、着替え、室内シューズ

*傷病対応：各自、傷害保険の加入をお願いします。
応急処置は主催者で行いますが、以後の責任は負いません。

*指導監督
大宮貴一(スポーツ教育学科准教授)
北海道学生陸上競技連盟ヘッドコーチ
江別市小学校走り方教室講師
国際陸連U-16コーチ

※参加者の専門科目や状況に応じて、北翔大学陸上競技部の学生指導者が変更することがあります。

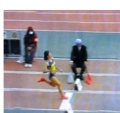


図1 陸上競技のトレーニング指導に関する案内

2024年度江別市内中学生対象 バレーボール指導・体験に関するご案内



現在、中学校における部活動の地域移行の在り方が検討されています。
北翔大学では江別市内の中学生を対象として、バレーボールの指導を受けてみたい、あるいはバレーボールを体験してみたい生徒を募集します。北翔大学の体育館で、学生指導者からの指導を受けてみませんか？ ※本事業は江別市の協力・支援により実施されています

*日 時：毎週月曜日 16:30～18:30
初回 令和6年11月11日(月) 16:30～18:30
以降 令和7年1月27日(月)までの8回
*11/25、12/30、1/6、1/13はお休みします
*事情により中止および変更が発生する場合があります



*場 所：北翔大学第1体育館アリーナ 住所 江別市文京台23番地
*対 象：中学1～3年生
*募集人数：20名程度
*参 加 費：無料
*駐 車 場：浅井記念館前駐車場
*申込方法：右記のQRコードから必要事項を入力し
お申し込みをお願いします お電話の申込は受付できません



*申込期間：随時
*実施内容：基本的なバレーボールの技術や体力トレーニング
*持 ち 物：室内シューズ、飲み物、タオル、替替え、肘膝サポーターなど（4号球はこちらで用意）
*傷病対応：各自、傷害保険の加入をお願いします
応急処置は主催者で行いますが、以後の責任は負いません

*指導監督



永谷 穂（スポーツ教育学科教授）
女子バレーボール部監督
バレーボールコーチ4



南部展生（キャリア支援課）
男子バレーボール部監督
バレーボールコーチ3



※参加者に応じて、北翔大学男女バレーボール部の学生が指導に当たります



図2 バレーボール指導・体験に関する案内

Ⅲ. 指導者コーディネート組織の設立へ向けて

このように、本学とA市における連携において、陸上競技とバレーボールの2種目では、本学施設で中学生が参加する形で各競技の指導や体験を実施することができ

ているが、やはり、それぞれ週1回の実施とはいえ生徒の送迎については、手間がかかる、冬場の移動が困難など、本学に通う問題や課題は大きく、本学としても、実施回数や時間がこれ以上増えることとなると、学内調整も困難となる。

そこで、学生もしくは指導者を各中学校へ派遣する形が取れないのか、予てより検討や調整の俎上にはあがっている。派遣に係る問題・課題点は、まずは学生の場合、移動手段と移動時の責任の所在である。冬場はより大きな問題・課題となるが、夏場であっても、公共交通機関では必ずしも便利でなく、自転車や自家用車利用については、大学活動としては許可が兼ねる。もちろん学生ではない社会人指導者であっても同様であるものの、市からの任用であるのか、責任の所在により認識が異なり、万が一の保証や保険については、事前に確認が必要である。また、A市における指導員配置の際にも課題として挙げられていた、学校施設の管理、特に施設や用具の管理について、学校教職員外に任せることが現状としてはできないため、この点について解決を図らなければならない。

A市資料³⁾によると、市内中学校の生徒数は、2023(令和5)年5月1日時点で2,788人であり、運動部活動については、表3のとおり、13競技15部（男女あるものは2つの部とし網掛け部分は大会出場加入人数で部として活動としてでなく学校外で活動）1,443名が活動している。それぞれの中学校における活動部数は、男女部合計すると85部に及ぶが、将来的に拠点校方式を採用すると考えると、A市の地理的特徴として南北、東西にそれぞれ15kmほどを網羅し、指導者や生徒の移動を考慮すると、

表2 バレーボール指導・体験概要

回数	日時	時間	場所	参加中学生数	学生指導者	実施内容
①	11月11日(月)	16:30～18:30	第1体育館アリーナ	23名	4名	基本練習・応用練習
②	11月18日(月)	16:30～18:30	第1体育館アリーナ	20名	3名	レベル分け・技術練習
③	12月2日(月)	16:30～18:30	第1体育館アリーナ	20名	5名	レベル分け・技術練習
④	12月9日(月)	16:30～18:30	第1体育館アリーナ	22名	6名	技術練習・簡易ゲーム
⑤	12月16日(月)	16:30～18:30	第1体育館アリーナ	22名	4名	技術練習・簡易ゲーム
⑥	12月23日(月)	16:30～18:30	第1体育館アリーナ	21名	3名	技術練習・簡易ゲーム
⑦	1月20日(月)	16:30～18:30	第1体育館アリーナ			
⑧	1月27日(月)	16:30～18:30	第1体育館アリーナ			

表3 A市内中学校の運動部活動加入人数内訳(令和5年度A市資料をもとに筆者加除 ※網掛けは大会出場加入人数で活動は学校外)

	野球部	サッカー部	バスケットボール部		バレーボール部		剣道部		テニス部		卓球部		バドミントン部		陸上競技部	水泳		柔道		体操	新体操	スキー	計
			男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子		男子	女子	男子	女子				
A中学校	14	27	14	26	27	19	11	8	30	27	24	12	3	3	2	1			1		5	1	252
B中学校	15		19	15			5	2			17	3	18	34									128
C中学校	17	7	26	13		14				18	18												113
D中学校	18	21	18	12		23	3	1			1	1		21		1							120
E中学校	13	17	23	17	21		1				12	20	4	32			3			1	2		166
F中学校	16	23	19	24	14	16	1		16	23	25	39	15	21	42		1			1	2		298
G中学校	7	13	15	13			7	4	10	14	21	17	29	29	35								214
H中学校	15		25	15		20			25				29	19	1				1	1	1		152
合計	115	108	159	135	62	92	28	15	81	82	118	92	91	131	112	2	4	0	2	3	10	1	1,443

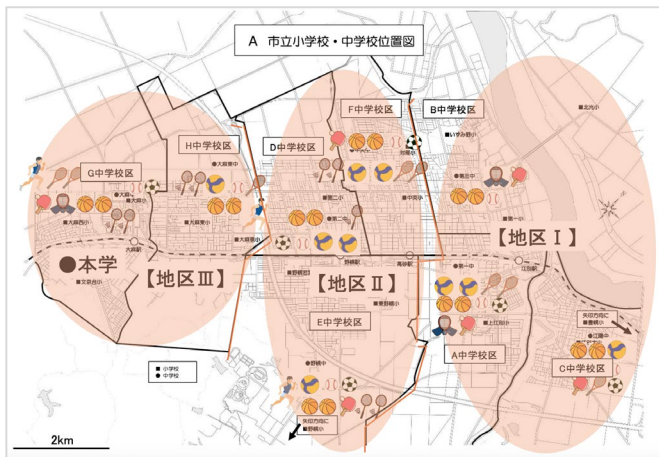


図3 A市立中学校位置図

概ね3地区(図3)ずつに各競技種目の拠点を設置するとバランスが良いと考える。今年度指導者配置は3校4名に留まっているものの、仮に単純に3地区最低ひとつの競技に1名とすれば15部×3地区で45名必要となるが、85部それぞれに指導者を配置することに対して半数強で済むこととなる。また、屋内外の施設で競技が競合することも少なくなり、拠点となり集約される分参加者数は増えるものの、その分同じ競技毎にレベルや男女で時間や場所をシェアしながら使うことも可能となる。現状の指導員配置は、土日祝のいずれか週1日3時間の勤務であることから、決して十分ではなく、平日の展開も考えると、少なくともあと2-3日は今後必要となるものの、そこへ学生指導者の配置、派遣をしていくことは可能ではないかと考えた。

そこで、本学ゼミ活動を通じて、A市における学生地域活動支援事業に応募した。A市内における「環境活動」、「地域福祉」、「教育・文化」、「観光・産業」、「まちづくり」のいずれかの活動に対して補助金が交付されるものであるが、本学ゼミでは、「教育・文化」活動の、A市内部活動支援組織体の設立(図4)として申請した。活動内容は、本学施設と学生指導者の募集と今後の指導者の配置や派遣の調整が可能な体制を整え、実際に

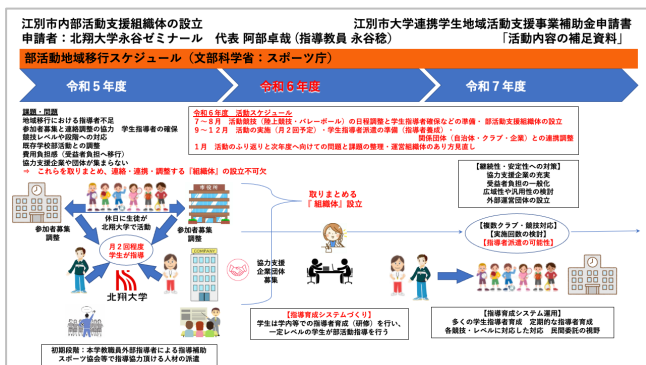


図4 A市内部活動支援組織体の設立補足資料

コーディネートが可能な組織体を設立することである。まずは、すでに陸上競技とバレーボール活動に絞って本学での学生指導者による運営を行っていることから、中学生の参加者に対する募集や告知は自治体と連携しながら、調整可能な部分は担当し、ノウハウや実践を蓄積するものである。また、学生指導者の指導能力の担保については、学内教員や指導者の協力を仰ぎながら、派遣の準備も進め、関係団体各所(自治体・クラブ・企業)ともコーディネートを行うものである。

これらの活動をベースとして、まずは、指導者配置および派遣における大きな課題である、学生の各中学校への移動について協議をしていかなければならない。それとともに、学内教員と連携しながら学生指導者を募り、指導力の担保、教育を行う体制づくりも構築していかなければならない。また、同時に、A市による指導者配置の予算も青天井ではなく、文科省も2023(令和5)年度概算要求の段階においては、運動部活動の地域連携や地域スポーツクラブ活動移行へ向けた環境の一体的な整備等予算として240億円ほどの大幅な要求しながらも28億円のみ配分となり、国としての地域移行の問題認識の低さを露呈させた。2024(令和6)年度においては、同予算1.5倍増の42億円の概算要求を試みながらも32億円の配分であった。2025(令和7)年度概算要求⁹⁾においては、中学校における部活動指導員の配置支援事業【拡充】に15億円、地域スポーツクラブ活動体制整備事業等【拡大】に45億円計上しているものの、今後はA市とも協議を重ねつつ、持続可能な活動となるべく、地元企業からの経済的支援の募集、会費徴収の協議を積み重ね、A市独自の地域移行モデル構築を目指したい。

IV. まとめ

本報告では、筆者がA市における部活動の在り方検討委員会のメンバーの一員として選出され、また、A市における部活動の地域移行について、同市の大学連携支援事業、および学生地域活動支援事業に選定されたこともあり、A市の部活動の地域移行動向を踏まえつつ、本学とA市における連携や協力現況から、今後の学生指導者の配置・育成およびこれらをコーディネートする組織の設立へ向けた動きについて、視座や知見を得ようとするものであった。

A市の部活動の地域移行における現状については、3校に4名の指導員を配置しているが、これらを含め今後3回目となるワークショップ開催による情報共有と課題整理が行われ、A市としての方向性、その後の進め方が概ね固まることとなる。早急に解決が可能なこと、時間をかけなければならないこと、またそうであっても予算など

の理由で出来ないこと、問題や課題が整理されたところで必ず進捗するわけではない。そして、本学での取り組みと部活動の地域移行をどのように連携させていくべきか、本学として地元A市と協議を重ねつつ、連携を図り、本学学生や教職員のソフト面のマンパワー、そしてハード面となる施設を調整しながら、部活動の地域移行について、より良い方向性をもたせたい。

また、部活動の地域移行が文科省及びスポーツ庁から打ち出され、歴史的な激変に、行政や学校現場は戸惑い、前向きに検討を進めようとしながらも、いくつも壁が立ちはだかっていると言える^{2),3)}。部活動を地域に移行すれば、文科省やスポーツ庁で予てより問題となっていた教員の部活動に拘束されていた過重労働時間が解消されるかもしれない。しかし、こうした改革期間での検討内容^{10),11),12)}について、中学校で過ごす生徒はもちろんのこと、指導に当たる指導者等や保護者、地域住民のすべてが意欲的で満足のいく活動とならなければ、本当の改革とはいえない。

最後に、調査を実施していただいた教育委員会のみならず、ならびに検討委員会メンバー、本学指導員学生ほか、関係者の皆様に深く感謝申し上げます、報告とするものである。

付 記

本研究は、2024(令和6)年度北方圏生涯スポーツ研究所・選定事業および江別市大学連携支援事業、学生地域活動支援事業の一環として実施した。申告すべき利益相反はない。

文 献

- 1) 江別市:江別市立中学校における部活動の在り方について (中 間 報 告) , <https://www.city.ebetsu.hokkaido.jp/uploaded/attachment/68283.pdf> (2025年1月6日参照)
- 2) 江別市教育委員会:部活動の在り方検討に係るアンケートの実施結果について, <https://www.city.ebetsu.hokkaido.jp/uploaded/attachment/65619.pdf> (2024年1月10日参照)
- 3) 江別市教育委員会:第1回江別市部活動の在り方検討委員会資料, <https://www.city.ebetsu.hokkaido.jp/uploaded/attachment/64472.pdf> (2024年1月10日参照)
- 4) 永谷稔他:A市における学校運動部活動の地域移行について—A市の動向と本学の取組から—, 北翔大学北方圏生涯スポーツ研究所年報 14, 9-14, 2024.

- 5) 永谷稔:コロナ禍前後の本学「スポルクラブ」の状況変化と今後の展開について—会員数推移とマネージャーヒアリングから—, 北翔大学北方圏生涯スポーツ研究所年報 13, 82-87, 2023.
- 6) 永谷稔他:コロナ禍における本学「スポルクラブ」の再開事例について—会員のアンケート調査結果から—, 北方圏生涯スポーツ研究所年報 12, 77-86, 2022.
- 7) 永谷稔:学校運動部活動の構造変化—体育とスポーツのダイナミズム—, 北海学園大学経営論集 17(3), 29-115, 2020.
- 8) スポーツ庁:「地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議」の中間とりまとめ, https://www.mext.go.jp/sports/content/20241220-spt_ori para-000039374_0002.pdf (2025年1月6日参照)
- 9) スポーツ庁:令和7年度概算要求事項, https://www.mext.go.jp/sports/content/20240827-spt_sseisaku01-000037779.pdf (2025年1月6日参照)
- 10) スポーツ庁:部活動改革ポータルサイト ~学校部活動の地域連携・地域クラブ活動への移行(地域移行)に向けて~, https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mca tetop01/list/1372413_00003.htm (2024年1月10日参照)
- 11) スポーツ庁:令和3年度地域運動部活動委託事業成果報告書, https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mca tetop04/list/1405721.html (2024年1月10日参照)
- 12) スポーツ庁:運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン, https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/shingi/013_index/toushin/1402678.htm (2024年1月10日参照)